

2026年 第38週（9月14日～9月20日）の感染症発生動向調査情報

<今週の内容>

- 1 管内の感染症発生状況
- 2 腸管出血性大腸菌による感染症・食中毒予防対策の徹底について
- 3 ダニ媒介感染症について
- 4 インフルエンザについて
- 5 「結核予防週間」、「呼吸器感染症予防週間」及び「非結核性抗酸菌症啓発週間」について

1 管内の感染症発生状況

(1) 管内の全数把握感染症（すべての医療機関から報告を求める感染症）

第38週は、報告はありませんでした。

(2) 定点把握感染症（指定された医療機関から報告を求める感染症）

（2026年38週）※定当：定点当たり患者数

インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	COVID-19
報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当
7 2.33	- -	- -	5 2.5	6 3	- -	- -	- -	- -	19 6.33

ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎4(ロタウイルス)	急性呼吸器感染症
報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当	報告 定当
3 1.5	- -			- -	- -	- -	- -	- -	198 66

※2025年4月7日から急性呼吸器感染症が追加になりました。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

◆厚生労働省ホームページ

[急性呼吸器感染症 \(ARI\)](#)

2 腸管出血性大腸菌による感染症・食中毒予防対策の徹底について

今年の県内の累積患者数は86人となりました。

抵抗力の弱い乳幼児や低学年の子ども、高齢者を受け入れる施設等については、感染症、食中毒予防対策がより重要となります。県民の皆さまには以下の点についてご注意いただきますようお願いいたします。

- (1) 学校や高齢者施設等において、職員及び児童、生徒あるいは入所者等到下痢、血便等の症状が見られたときは、早期に医療機関を受診するよう勧奨するとともに、同様の症状を有する者が複数確認された場合は、速やかに管轄の健康福祉事務所（保健所）へ報告してください。
- (2) トイレの後や食事の前には、石けんによる手洗いを励行してください。また、おむつなどの処理をした場合は、手指の洗浄と消毒を徹底してください。
- (3) 湧き水などの消毒処理がされていない生水は飲まないよう、また、肉類は中心部まで十分加熱処理して食べるようにしてください。
- (4) 施設等に設置されているプールの水質管理や、水遊び用プールについても水質等の衛生管理を徹底してください。
- (5) 動物（牛、鳥、カメなど）と触れ合ったり、その排泄物に触れた後は、石けんによる手洗いとともに、必要に応じて手指の消毒とうがいを励行してください。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[腸管出血性大腸菌感染症について](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[腸管出血性大腸菌感染症](#)

3 ダニ媒介感染症について

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の今年の県内の累積患者数は 8 人、日本紅斑熱の今年の県内の累積患者数は 12 人となりました。

SFTS は SFTS ウイルスを病原とし、主な症状は原因不明の発熱、嘔吐・下痢などの消化器症状、血小板減少、白血球減少などが認められ、重症化数すると死に至ることもあります。潜伏期間は 6～14 日で、治療薬はなく対症療法となっています。一方、日本紅斑熱はリケッチア・ジャポニカを病原とし、主な症状は発熱、発疹、挿し口が赤く腫れ中心部がかさぶたになるのが特徴です。潜伏期間は 2～8 日で、治療にはテトラサイクリン系の抗菌薬等が投与されます。

マダニの活動が活発となる春から秋にかけて、ハイキングや草むらに入る場合は、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくする、虫よけスプレーを活用する、帰宅後すぐに入浴し着替えるなどの予防対策が有効です。また、山野へ入った 2 週間以内に発熱や発疹が出たときはすぐに受診し、その時の行動を伝えることが重要です。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[マダニに注意!ダニ媒介感染症について](#)

◆厚生労働省ホームページ

[重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について](#)

[ダニ媒介感染症](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[重症熱性血小板減少症候群（SFTS）](#)

[つつが虫病](#)

[日本紅斑熱](#)

4 インフルエンザについて

管内のインフルエンザの定点あたり患者数は、今週 2.33 人で、先週（1.33 人）から増加し、兵庫県内の定点あたり患者数も今週 4.30 人で、先週（3.20 人）から増加しました。地域的には、宝塚保健所管内で注意報レベル基準値（定点あたり患者数 10.0 人）以上となっています。

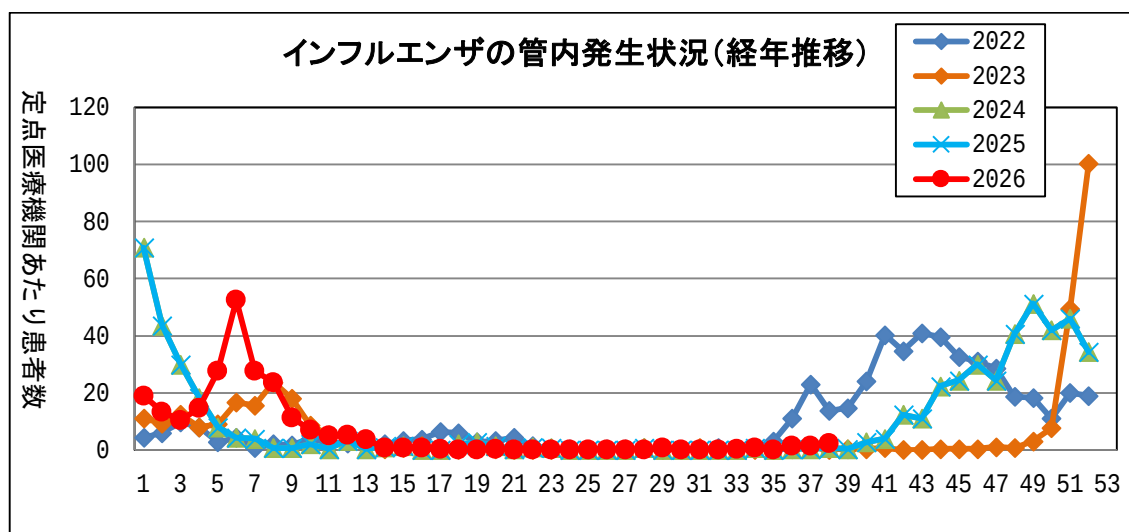
直近の 5 週間に県内の定点医療機関から報告された患者 1,745 人の年齢分布では、5～9 歳が 35%、10～14 歳が 18%で、15 歳未満が全体の 70%を占めています。

臨時休業の施設別発生状況では、今週 42 件（先週 20 件）の報告がありました。

基幹定点医療機関においては、入院患者が今週 12 人（先週 16 人）報告されています。

社会福祉施設等においては、今週 3 件（先週 1 件）の集団発生が報告されています。

インフルエンザの予防には、ワクチン接種、手洗いが有効です。また、感染が疑われる場合は、マスクの着用、咳エチケット、早めの受診が重要です。



<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[インフルエンザ疾患の発生状況\(学級閉鎖・集団発生\)](#)

[兵庫県インフルエンザ情報センター](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[インフルエンザ](#)

5 「結核予防週間」、「呼吸器感染症予防週間」及び「非結核性抗酸菌症啓発週間」について

厚生労働省では、9月24日から9月30日を「結核予防週間」「呼吸器感染症予防週間」及び「非結核性抗酸菌症啓発週間」として、結核・呼吸器感染症及び非結核性抗酸菌症に関する普及啓発を行っています。

結核は、毎年1万人以上の方が新たに発症しているわが国の主要な感染症の一つです。朝来健康福祉事務所管内では、令和7年中に1件、令和8年は現時点で5件の発生があり、そのうち67%が75歳以上の高齢者でした。

高齢になると、咳や痰などの症状が目立たなくなり、受診や診断が遅れてしまうことがあります。年に一度は胸部エックス線検査を受けましょう。

長引く咳や痰、微熱、体のだるさ、呼吸困難等の症状は、結核や非結核性抗酸菌症（NTM 症）の可能性があります。症状がある場合は早めに医療機関を受診しましょう。元気がない、体重が減るなども受診のサインです。早期に発見できれば重症化を防ぐことができ、家族や友人等への感染拡大を防ぐことができます。症状に気付いた時は早期受診をお願いします。

また、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、細菌性肺炎等の呼吸器感染症の予防のため、マスク着用を含む咳エチケット、換気、手洗い、手指消毒などの基本的な感染対策を心がけましょう。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[結核に関するページ](#)

◆厚生労働省ホームページ

[結核](#)

[急性呼吸器感染症 \(ARI\)](#)

[非結核性抗酸菌症 \(NTM 症\)](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[結核](#)

◆(公財)結核予防会結核研究所ホームページ

[トップページ](#)